

【共同住宅】外皮検討に必要な図書リスト

物件名：

(2024.08.19 改正)

	チェック	図面名称	CAD データ	PDF データ	確認内容	未作成図面
意匠図ほか	☐	設計概要書		●	建築地とタイプ数のわかるもの	☐
	☐	各階平面図	●	●	検討住戸の専有面積、各室の面積、壁の種別と厚みのわかる資料	☐
	☐	立面図		●	仕上げ区分、窓形状の確認	☐
	☐	断面図		●	階高、屋根勾配	☐
	☐	矩計図・断面詳細図		●	断熱材の施工箇所、仕様、厚み、熱橋対策、スラブ厚等を確認	☐
	☐	建具表、建具配置図		●	平面図に検討住戸の建具仕様とサイズを手書きで記載でも可	☐
	☐	断熱範囲図又は情報入力シート		●	断熱範囲図がなければ別紙情報入力シートに記載してください	☐
	☐	空調エリア範囲図（共用部）		●	共用部の空調・非空調のエリアをマーキングした資料	☐
	☐	構造図又は仮定メンバー		●	計算住戸の躯体寸法、スラブ下がり範囲、鉄骨部材メンバー等を確認	☐

- ...必須図面・データ

○ ...該当している場合はご用意願います
- ・PDFデータを一式で送っていただければ弊社で必要図面を抜粋します

・CADデータはDWG,DXF,JWCのいずれかをお願いします。

【物件名】

【地域区分】

ver2.9

■ 温熱等級の検討に必要な情報入力シート

等級

熱抵抗値は記載不要

[mm]

採用	部 位	仕 様	備 考	熱伝導率	設計厚	熱抵抗値	最大可能厚
	屋根（非歩行）	硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号		0.023			
	ルーフバルコニー（歩行）	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA		0.028			
	外壁（中住戸）	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H		0.026			
	梁型	同上		同上			
	外壁（妻住戸）	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H		0.026			
	梁型	同上		同上			
	上部スラブ全面	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H		0.026			
	外気に接する床	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA		0.028			
	梁型	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H		0.026			
	その他床	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA		0.028			
	梁型	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H		0.026			
	ピット上部スラブ全面+小梁	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA		0.028			
	断熱補強スラブ上面	なし	L=[内 外]（折返し）	－		－	
	断熱補強スラブ下面	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H	L=[内 外]（折返し）	0.026			
	断熱補強界壁	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H	L=[内 外]（折返し）	0.026			
	断熱補強設備基礎裏	吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H	L=[内 外]（折返し）	0.026			
－	窓	☐ 単板（部位：） ☐ 図示 ☐ 普通複層 A []（部位：） ☐ 図示					
	■ 金属製サッシ	☐ 二重サッシ（外側：） ☐ 図示 ☐ Low-E A [] ☐ 取得（部位：） ☐ 図示					
	☐ 複合サッシ	（内側：） ☐ 図示 ☐ 遮蔽					
○	温度差係数ゼロ告示第1105号	☐ 適用する（外壁と開口部の熱貫流率が基準値以下とし無断熱部分を無くす事が必須） ☐ 適用しない（高評価を取得しにくい）					
－	熱橋の種類	☐ 旧熱橋(2024年12月31日まで) ■ 新熱橋(2025年1月以降)					

※温度差係数ゼロを使うかどうかは、事業主と設計者の意向と責任に基づく判断になります。

※現場の変更で適用条件が満たせなくなると係数ゼロの採用が無効になります。

その場合、弊社は責任をとりかねますのでご理解願います。

※新基準は審査機関によっては判断基準が違うので事前に確認する必要があります。

■ 下記の必要情報を図示してください		検討タイプ：
①	建具寸法（検討タイプのみ）	
②	住戸下の共用部の空調、非空調室の区分	
③	スラブ下がり位置・梁位置（検討タイプのみ）	